

多様な生きものを守り、 活かす観光

地方の思いと地域経済の発展

2019年1月から「国際観光旅客税（出国税）」が導入されるなど、政府主導による観光立国の実現に向けた動きが活発になる中、当協会では、1月25日に『多様な野生の生きもの』と『観光』をテーマとし、地域経済の活性化の新たな道筋を探る国際フォーラムを開催することにしました。

全国の各自治体に今求められている「インバウンド対策の拡充」。その重要な鍵となるのは、地域ならではの美しい自然や多様な生きものです。これらをインバウンド向けの観光資源として見直し、魅力的に見せる仕組みを充実することで、地域経済の振興とともに観光資源である自然の保全・再生につなげることが可能です。

本フォーラムでは、観光資源であるツルの保護を実践する国際ツル財団の共同創設者や、サステナブル・ツーリズムを促進するドイツの駐日大使、自治体等と連携してアウトドアを基軸とした地域の活性化に取り組むモンベル会長、自然と共生した観光・地域づくりに取り組む北海道・徳島県の担当者など、国内外・多方面の専門家が一堂に会します。

特に、自治体のリーダーの皆様にご参加いただき、皆様の自治体における新しいインバウンド政策について考える機会としていただければと思います。



※お申し込みは、同封の申込書にご記入の上、FAX でお送りいただくか、当協会ホームページの申込フォームよりお願いします。
<http://www.ecosys.or.jp/activity/symposium/index.html#kanko>

地域経済の発展に向けた新たな道筋を探るイベントのご案内



日 時 2019年1月25日（金）
13:00 ～ 17:30（12:30開場）
会 場 四谷区民ホール（東京都新宿区内藤町87番地）
主 催 （公財）日本生態系協会
後 援 内閣府、総務省、環境省、国土交通省、全国知事会
全国市長会、全国町村会、経団連自然保護協議会
（一社）日本旅行業協会 ほか
出演者 観光庁長官 田端浩氏
国際ツル財団 共同創設者 ジョージ・W・アーチボルド氏
駐日ドイツ連邦共和国 大使
ハンス・カール・フォン・ヴェアテルン氏
全日本空輸株式会社 マーケティング室
観光アクション部長 藤崎良一氏
株式会社モンベル 代表取締役会長 辰野勇氏
北海道 経済部 観光振興監 本間研一氏
徳島県 政策監 福井廣祐氏
東京都市大学 特別教授 涌井史郎（雅之）氏

グランドデザイン総合研究所は、自然と共存する美しいまちづくりの方法を、行政や議会、市民に提案するシンクタンクです。お気軽にご連絡ください。

（公財）日本生態系協会

グランドデザイン総合研究所 tel. 03-5951-0244

- 50年先、100年先の世界にひとつのグランドデザイン作成
- 海外の先進事例に関する情報提供
- 国の事業を活用した自然と共存する持続可能なまちづくりの提案
- 海外視察ツアーの企画・コーディネート
- 行政職員や市民向けの研修会や講演会への講師派遣
- あなたのまちをテーマとした国際シンポジウムなどの企画・開催

つかさどる人の NEWS

NO.45

2018.12 発行

（公財）日本生態系協会
グランドデザイン総合研究所

〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-30-20 音羽ビル
tel.03-5951-0244 <http://www.ecosys.or.jp>



地域を活性化するビオトープ

生きもののすみかとなるビオトープをつくり、ゴルフ場の魅力向上を図った例

生態系が健全な状態にあることで、私たちは自然から様々な恵みを受けています。生態系が損なわれると、農林漁業、ものづくり、観光など、経済や社会の多方面に影響が及びます。世界が求める持続可能な社会を実現するうえで、健全な生態系は最も重要な社会基盤です。

「国土形成計画」や「生物多様性国家戦略2012-2020」などの国の政策においても、森から海までの自然のつながりを保全することが持続可能な国土利用の観点から見て重要であることが示され

ています。

今号では、自然と共存する豊かな地域を実現する取組として、ゴルフ場等の地域の空間に多様な生きものが暮らす豊かな自然を取り戻し、地方の活性化や環境教育の拠点として活用している事例をご紹介します。

※ビオトープとは、ラテン語で生命を意味する bios と、ギリシャ語で空間を意味する topos をあわせた用語で、地域にもともといる生きもののすみかとなる環境（川や森、草原など）のことを言います。



ゴルフ場の中に創出されたビオトープ
(バーデン＝ヴュルテンベルク州)

日本では、広範囲の土地造成を行いゴルフ場の開発を行うことがあります。ドイツでは、生産性の低い農地をゴルフ場として整備する際にビオトープを創出し、自然再生した空間を活かして地域の活性化に取り組んでいる例があります。

<ゴルフ場に自然を取り戻す>

ドイツゴルフ連盟は、生態系を守りながらゴルフ場の経営を維持できるように「ゴルフと自然」という認証プログラムをつくり、ゴルフ場における自然



再生の取組を推進しています。

ドイツの南西部、バーデン＝ヴュルテンベルク州に位置するゴルフクラブ「シェーンブッフ」では、ゴルフのプレーへの支障が少ないエリアを中心に、ビオトープとして自然の草原の再生に取り組んでいます。草原にはチョウやハチなどの野生の生きものが訪れ、これらを解説するガイドツアーが定期的に開催され、人気を呼んでいます。

またゴルフ場内では、農薬を使用せず生きものに配慮した養蜂を行っています。ミツバチから集めた蜜を使ってオリジナルブランドのハチミツを生産し販売しており、その収益は将来を担う新しいゴルファーの育成費としても還元されています。このように、ゴルフ場の中に自然を取り戻すことで、地域の生きものがあふれる魅力ある環境を創出するだけでなく、エコツアーの企画や地域ブランドの創出などを通して地域の活性化につなげています。

国内では近年、地域の人々と一緒になって、ビオトープを利用した教育活動を行ったり、ビオトープ

の管理作業を行ったりするなどの、自然を活かした取組の輪が広がっています。ここではその一例をご紹介します。

<自然に配慮できる人づくりの場として活用>

地域の自然を良好な形で維持・再生していくためには、地域の人々の参加が欠かせません。荒川の河川敷につくられた三ツ又沼ビオトープ（埼玉県）は、市民団体からの「もともとこの地域にあった湿地環境を再生してほしい」との要望を国土交通省が聞いて、民有地だった場所を買い取り、国有地として管理している場所です。この場所は、荒川につくられている他のビオトープや自然公園、調節池などと組み合わせ、自然のつながりを広い範囲で守る荒川流域の生態系ネットワークの拠点となっています。

三ツ又沼ビオトープでは、近隣の小中学校、高等学校などの教育機関や企業、環境団体等が、授業や部活動、新人研修などの機会を利用して、自然を守る取組に積極的に関わっています。例えば学校は、地域の自然について実体験を通した学習の場として、企業は社会貢献の場などの目的を持って、取組に参加しています。

こうした学校や企業などの取組のコーディネーターとしての役割を果たしているのが、自然を守る



三ツ又沼ビオトープ

活動の中核となる市民団体です。

多くの主体が参加できる機会を上手につくことで、取組に対して興味や関心を持つ人が増え、そのことがさらに多くの人や団体の参加につながる好循環が生まれています。自然を守る活動に関わる人が増えていくことにより、自然と共存したまちづくりの推進にもつながります。



授業の一環で三ツ又沼ビオトープを訪れた大学生